

令和元年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：令和元年6月15日（土）
午前9時00分～午後4時40分
場 所：市役所前川新館3階大会議室

出席者：審査委員 土井委員長、安田委員、鴻野委員（事業番号2まで）、齋藤（秀）委員、
藤田委員（事業番号2まで）、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、
三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員、川村委員
市民協働課 高谷課長、竹内補佐、中村係長、阿保主査、小山主事、村上主事、
菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

（公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●12：大沢サマーフェスティバル／大沢サマーフェスティバル実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：協賛金をもらう目途は立っているのか。

A：さまざまな企業や個人に働きかける予定である。実行委員会のメンバーだけでなく、町会の方も含めて挨拶に伺い、現在8件ほどもらえる見込みがある。

Q：昨年のテーマが「健康」だったから参加してくれた方に、「防災」をテーマにしても参加してもらうための工夫があれば教えていただきたい。

A：組織の体制を変え、石川地区の各公民館の館長に働きかけてメンバーに入ってもらったので、そこから地道に訴えかけていきたい。

Q：子どもたちの参加状況や感触を教えていただきたい。

A：「防災」だけではなかなか人が集まらないので、夏祭りと掛け合わせて防災訓練を行っている。子どもが参加すれば大人も集まるので、町会の子どもたちに年に1回の楽しいイベントとして提供している。その中でも今年1番力を入れているのが、「地域に見える化」であり、個人情報も関わってくるのでどこまで踏み込んでいいかわからないが、話し合いながら防災に関する冊子を作って、有事の際に役立てられるよう各班に配りたいと考えている。

Q：来年申請しない予定だが、経費をどのように捻出する予定か。

A：5年で一区切りとして今後頑張っていこうと考えており、削減できるものは削減していくことで続けていきたいと思う。

【主な意見】

- ・これまでの実績からいろいろな団体を取り込んで新しい形でスタートするのが見え、頼もしいと思う。
- ・防災を意識してもらうために、豪雨や地震などの「防災」とは別な見せ方をし、常にテーマを変え、地域の方たちが必要としていることを考えながら企画していただきたい。
- ・消防や消防団に講師を依頼すると、AEDを無料で用意してもらえるので、活用していただきたい。
- ・学校では避難訓練を行うが、子どもが学校にいるときに災害が起こるとは限らないので、家にいるときにも災害に対処できるように、子どもたちにも訓練に参加していただきたい。

【採択結果】

合計点 74.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合 計		74.9

【質疑応答（抜粋）】

Q：1%システムを活用する前との違いや、今後継続するための経費の捻出方法を教えてください。

A：多賀神社がねずみ年の一代様であることから、地域のねずみ年の人を対象に「ねずみの同窓会」を会費制で行ったのが事業のきっかけだった。この場所を地域活性に生かしたいという思いから2年目は知人を通じて、あまり経費をかけずにイベントを盛り込んで開催した。昨年度から1%システムを活用し、スケールアップしたことで参加者が増加した。今後の東目屋地区のことを考えると、地域の中でどのようにして資金を捻出するかが課題ではあるが、寄付や出店の売上などで運営していく方法などを、東目屋地区連合会とも話し合いをしながら、自立していく方法を考えていきたい。

Q：祭りを開催する前と後での地域内に起こった変化があれば教えてください。また、その変化を祭り以外にどのように広げていきたいとお考えか教えてください。

A：地域行事が減っている中で継続して祭りを開催していることについては、地域から評価していただいております、期待されていると感じる。今後も、東目屋にとって必要だと思うことをどんどん計画していきたいので、祭りの企画・運営に関わった若い世代と、理解を示してくれている上の世代が一緒になって、新たな動きにつながるよう努力しているところである。

Q：昨年度は、地域外からの参加者はどのくらいあったのか。

A：神社の宵宮と同日開催しているため、地域外から参拝客は来ているので、その方たちをこの祭りにも引き込んだりしている。今後もSNS等を利用して発信していく。また、ねまり相撲には、73人の応募があり、そのうち10名は地域外からの応募だったが、当日天候が悪かったためキャンセルが相次いだのが残念だった。

Q：昨年度、雨で駐車場がぬかるんで歩きづらかったので、今年度の対策について教えてください。

A：アスファルト舗装がされている場所を駐車場として使おうと考えており、会場までの移動距離も長くなるのでプロの方に交通誘導をお願いすることにした。また、会場はこれまでの場所でなくては意味がないと思っているので、業者からプラスチック製の板を安く借りて足場をしっかりと組むことにした。

【主な意見】

- ・朝から夜までスケジュールがびっしり組まれており、たくさんの人の協力が不可欠だと思う。昨年の中学生ボランティアガイドも素晴らしいが、今年は各町会を巻き込む計画もしており、地域住民がどんどん参加する仕組みを作り上げているところが素晴らしいと感じた。
- ・祭りを、地域の本来のつながりを作るための「道具」として使っていることが良いと思う。
- ・資金や協力者を得るためにも、事業を知ってもらうことが大事だと思うので、周知にも力を入れていただきたい。
- ・地域全体として、通年で東目屋をPRしていき、その延長線上に夏祭りがあるといった

展開になっていくと楽しいと思うので、ぜひ工夫していただきたい。

- ・祭りの期間以外にも東目屋のPRにつながるようなSNSの活用法を考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 79.8 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		79.8

● 9 : グレーゾーンと言われる子や発達障がいを持つ子の親の会としての

サークルを中心とした活動／はなまる 発達障がいを持つ子の親の会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 子どもの発達障がいのことで悩まれている親はどのくらいいるのか。

A : 障がいと診断されることに抵抗があり、悩んでも医療機関に行っていなかったりする保護者もいると思うので、実数としては把握しづらい。福祉サービスを利用している子どもが市内で100名以上おり、そういった家族の声を聞いたことをきっかけに会を設立した。

Q : 事業の周知の仕方について教えていただきたい。

A : これまではフェイスブック等で親の会の開催案内をしてきたが、チラシのレイアウトなどをこれから考えて、発達障がいではなくても子どもがたくさん集まるヒロロの子どもの広場などにチラシを置きたいと考えている。

Q : 親同士の集まりを運営するにあたって、今後の方向性や必要になっていくと考えていることについて教えていただきたい。

A：今は事務局の中にいる保育士が子どもをみることができると、子連れで参加できるようになっているが、ゆくゆくは保護者同士だけで話し合える場も必要になってくると思うので、先輩の親御さんに子どもを見ていただきながら話ができる機会を作っていきたい。また、障がい者を社会に知ってもらうことも必要だと思っている。いわゆるグレーゾーンの子どもの内的な部分を理解してもらうのは難しいので、社会に発信していく仕組みも考えていきたい。

【主な意見】

- ・発達障がいにもいろいろあるので、社会の理解を広げるためにも、講演会などで多くの参加者を巻き込み、話し合う場を作っていただきたい。
- ・悩んでしまい、閉じこもりがちになっている保護者の方にも目を向け、働きかけて活動していただきたい。
- ・当事者である親だけでなく、客観的に見ることができる福祉関係の方が会に入っているのがいいことだと思う。
- ・今後団体の活動を続けていくためにも、無料だけに拘らず、経費のかけ方などを考えながら、ゆっくり体制を整えていただきたい。
- ・同じ境遇の人同士で相談し合う場を作って活動することだけでも大きな一歩だと思う。参加したい人が参加しやすい場所を確保することをまずは第一段階として、しっかりスタートしていただきたい。

【採択結果】

合計点 78.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		78.3

●11：“わ”と“な”の生き生きサークル4／“お”と“な”の生き生きサークル実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：男性の参加者を増やすための工夫があれば教えていただきたい。

A：男性にチラシを渡してもなかなか参加に結びつかないと思うので、まずは参加者の知り合いに声をかけてもらい、体操のほかに将棋・オセロなどの参加してみたくなるようなメニューも考えていきたい。

【主な意見】

- ・毎回継続することで効果が出てくる体操があるので、専門の方に相談しながら魅力的なものを取り入れていただきたい。
- ・集まった時に、たまにでも良いので、体操などを続けてきた効果をみんなで雑談できるような時間を取ってみてもいいと思う。
- ・事務局が地元の人と話し合いながら計画をし、実行しており、それをいろいろな地域で展開させているのが、地域を興していると感じられるので、継続して頑張っていただきたい。
- ・市の関係課にもぜひ視察に行っていただきたい。
- ・定期的な運動や人とのふれあいは老化防止につながるので、このような活動グループが市内に増えていくことを期待したい。

【採択結果】

合計点 78.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合 計		75.2

●2：文化振興事業「第1回 金魚ちょうちんと金魚ねぶた交流事業」

／一般社団法人 弘前文化財保存技術協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：展示会等の開催日がねぶた期間中なので、ねぶた参加者が参加しづらいように感じるが、弘前市民が柳井市にどのくらい興味を持ってくれると考えているか。

A：展示会場の前の通りがねぶたの集合場所になっているため、ねぶた参加者にはねぶたを整列させた後に来てもらえると思う。また、会場前には100円バスの停留所もあるため、看板を見て入ってくる観光客もいると見込んでいる。柳井市へ興味を持ってくれる市民は少ないかもしれないが、会場には金魚ねぶたのもとになったと言われる「津軽錦」という金魚も展示するので、金魚ねぶたがどのように生まれたのかもあわせて、子どもたちに知ってもらえる機会にしたい。

【主な意見】

- ・今回は柳井の「金魚ちょうちん」を知ってもらうことが大きな目的だと思うが、「金魚ねぶた」についてももっと力を入れた組み立てにしていきたい。例えば、展示会で折り紙で金魚ねぶたを作ってもらうことができれば、子どもたちや観光客も喜ぶと思う。
- ・子どもたちがねぶたに参加するとき持っている「金魚ねぶた」とはどのようなものなのか、子どもたちに知ってもらう機会にしていきたい。
- ・この機会に柳井市や柳井の金魚ちょうちんに興味を持つ市民が少しでも増えて、金魚ねぶたの技術的なアドバイスなどの交流ができるようになれば面白いと思うので、市民に知らせるための工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 76.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		76.3

● 20：子どもの生きる力を育てる「こども農業部」事業／みらいねっと弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：夏の暑さ対策について教えていただきたい。

A：ベースになる農園の近くに交流会館があるので、所有している町会の人に相談して、空いているときに待機場所として使わせてもらえるようにした。暑さ対策はしっかりしたいと思う。

Q：毎週土曜日に参加してもらうとなると、内容が盛りだくさんで参加者の負担が大きいと感じるが、団体の考えを教えていただきたい。

A：農業の少し大変な部分も体験してもらいたいという思いがある。ただ、それが嫌で体験したくなくなるといけないので、雨の日は少し作業をしたら建物の中で調理してみんなで食べるなどバランスを見ながらやっていきたい。プログラムは、様子を見ながら調整していこうと考えている。

Q：体験の中には、時間内に完成しない加工品があるが、作られる過程をどのように子どもたちに体験してもらおうのか教えていただきたい。

A：すべて体験できるのが一番いいが、1日でできないものは、田んぼや畑の水やりなどと同様に、大人が少し手を加える必要があると思う。次の週までに大人が手を加えたことは、しっかり子どもたちに伝えたいと思う。やりっぱなしで終わることがないように、加工品を扱う団体さんと話し合いながら配慮していきたい。

Q：対象を「親子」としたねらいを教えていただきたい。

A：子どもの食生活は保護者が支えることになるので、農業や食の大切さについて知ってもらいたいため「親子」を対象とした。保護者の方たちには、子どもが農作業をするとき

はあまり手助けせず、見守ってほしいと謳っていきたいし、保護者が参加できない場合も資料や写真を共有するなど工夫をしていきたい。

【主な意見】

- ・農業の後継者が少なくなっている中で、子どもたちに農業を体験させることで農業に興味を持ってもらうことはとてもいいことだと思う。
- ・毎回参加できる子どもは少ないと思うので、写真などを使って参加できなかったときの内容を説明するようなフォローも考えていただきたい。
- ・初めての事業なので試験的に実施していただく中で、シーズンを分けたほうがいいのかなどの検討や、子どもをしっかり観察して、参加したことでのどのように変わっていったのかを発信していくことも重要だと思う。
- ・プログラムをしっかり組み立てて、子どもたちに、自分たちの手で物を作ることの楽しさをうまく伝えていただきたい。

【採択結果】

合計点 69.1 点 ≥ 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合 計		69.1

● 5 : 大開町会納涼祭り／大開町会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 若い参加者を増やすために、若者に子どものゲームを考えてもらうとのことだが、具体的にどのようなゲームか教えていただきたい。

A : 今年の春から子どものゲームを考えてもらえるように若い世代に声をかけてきた。これから行われる会議でその内容を聞くことになっている。

Q : 今後近隣の町会と一緒に祭りを開催することは考えられるのか。

A : 世帯数が減っていることなどは、ほかの町会でも抱えている問題だと思うので、今後の方向性のうちの1つではあると思う。

【主な意見】

- ・若い世代を新たに取り込んで、将来的には若い人たちに企画の部分にも参加してもらえるように、行事自体も賑やかにして、ぜひとも頑張っていたきたい。
- ・若い人達が考える「子どもゲーム」の材料費も対象経費になっているので、若い人たちを市も応援しているというメッセージになるのかなと思う。
- ・同じような祭りを近くの町会と合同で行う流れは、社会情勢や、予算的・効率的な問題からも、近い将来にやってくるかもしれないので、地域を盛り上げるきっかけとして実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 71.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.9
合計		71.1

● 17 : 松原小学校児童のねふたをとおした伝統文化の継承と地域活性化

【質疑応答（抜粋）】

Q：今回は小学5年生が主にねふた制作に携わる予定だが、他の学年がどのように関わる予定か教えていただきたい。

A：今の5年生が4年生のときに総合的な学習の時間でねふたについて発表した際、ゲストティーチャーとして愛好会が参加した流れで5年生がねふたを作るようになったため、今回に関しては5年生が中心となって携わる。

Q：6年生は小学校最後の思い出として、特別に参加する予定はあるのか。

A：40周年の記念ということで、小学校のほうでも合同運行の日は、5・6年生にはぜひ参加して欲しいということで考えているようである。なかなか全学年で動くことは難しいが、ねふた小屋は小学校の隣にあるので、何年生でも参加できるようにオープンにしておきたい。

Q：40周年事業を行うにあたって、団体に積立て等を行っているのか。

A：PTAとしてではなく、町会長や地域の人たちを含めた「協賛会」を立ち上げて準備をしており、ねふた以外には見守り活動のビブス作成や記念誌作りなども予定している。

【主な意見】

- ・弘前の特徴として、ねふたは地域と密着した関係があり、最近では学校と地域・町会のつながりが大事になってきているので、今回はねふたを中心に、また小学校の40周年をきっかけにさらに盛り上がり、つながりを強くしていただきたい。
- ・学校をもっと巻き込んで、町会活動を活性化させていただきたいので、応援したい。

【採択結果】

合計点 73.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合 計		73.3

● 3：十面沢お山の会（お山参詣）／十面沢お山の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：小学生は準備などに関わっているのか。

A：昨年は小学校で旗に字を書く体験をしてもらい、お山参詣当日に小学校と中学校に寄ってお披露目をしている。

Q：当日は平日だが、子どもたちも参加する予定か。

A：小学校の授業の時間に体験をしてもらえるようになったこともあり、児童も何人かお山参詣に参加する予定なので、欠席扱いにならないようにと学校側に文書を持ってお願いに行っている。

Q：実際に触れるみることで子どもたちが参加しやすくなると思うが、機会はあるのか。

A：地元の人が見る機会はあると思うが、地域外となるとなかなか難しい。小さい子は一番簡単なお囃子の手振り鉦から入ってくることが多い。

【主な意見】

- ・お山参詣は市指定重要文化財でもあるので、地域の良さを授業や体験学習として取り入れてもらうなど、学校も一緒にやっという話し合いを続けていけば、子どもたちの参加という道は開かれていくと思う。
- ・若い世代が地域を盛り上げてくためにやっていることなので、子どもたちにも継承できるように頑張っていたきたい。

【採択結果】

合計点 78.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		78.7

● 16 : harappa 映画館／特定非営利活動法人 harappa

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回は若い人や学生もターゲットに引き込みたいとだが、そのほかに障がいがある人も受け入れるための工夫などがあれば教えていただきたい。

A : 前回のアンケートで、耳が聞こえにくい人から字幕のある洋画を楽しみにしているという回答をいただいた。アンケートからいろいろ気づかされることがあるので、意見をきいて今後の活動にも生かしていきたい。

Q : どのように映画を選んでいるのか。

A : 今は10名くらいで、2～3か月ほどかけて映画の選定をしている。自分たちが最近見て面白かった映画や、これから上映される面白そうな映画、弘前や青森県にゆかりのあるものなどを出し合って、1日3本の上映から何かしらのメッセージやテーマを持たせることができないかなどを話し合い、プログラムを作っている。

Q : 学生が多く来ると、学生割引によって収入が減ってしまうが、その分を補うためのバランスをどのように考えているか教えていただきたい。

A : 何年前かに調べた時に、学生の値段設定をすることで収入が減るのではなく、それまで来ていた一般の人数にプラスして学生が来てくれていた。学割がある間に映画を観る習慣がついて卒業してからも映画を観に来ていただければと思っている。

【主な意見】

- ・ SNS 等で情報を得て見たいと思った映画も、県内では上映予定がないことがあり、一般的に上映されない映画を集めて上映することは必要なことだと思うので継続していた

だきたい。

- ・ これまでも常設のコミュニティシネマができれば理想的だという意見があったが、美術館の施設がどのようになるかで変わってくるとしても、常設ではなく、今のような定期的な上映会でもいいのかなとも思う。

【採択結果】

合計点 76.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		76.0

● 6 : DOG FES IWAKI 2019 / DOG FES IWAKI 実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 会場では、参加者同士が交流する場はあるのか。

A : 来場者は犬が好きなので、積極的に交流をしている。アンケートでも、いろんな犬とふれあうことができ良かった、知り合いになれて良かったという声が多く、この場がつなぎ役になっているのは間違いないと思う。

Q : 近年、飼い主のマナーが向上していると感じるが、団体としてはどのように感じているか教えていただきたい。

A : 完全に良い状態とまでは言えないが、一昔前の放し飼いが多かった状態と比べると、全体的にかなり良くなっていると思う。

Q : しつけの問題で参加のできる犬と、できない犬がいるように感じるが、団体の考えを教えていただきたい。

A : 団体としては、しつけができていないと感じる犬と飼い主にむしろ参加して欲しい。

来場することでさまざまな情報を得ることができるし、同じ悩みを抱えている人も来ているので、勉強になると思う。

Q：さまざまな事業効果を挙げられているが、これまで実施してきたことで特に効果が上がっていると感じることを教えていただきたい。

A：確実にマナーアップにつながっていると感じており、また、さらにマナー向上につながっていくことを目指しているところである。

【主な意見】

- ・ペットの危機管理という面からも、災害時の避難情報の共有や、キャンプのような形で災害時の避難訓練をやっていただけると、より内容が充実すると思う。
- ・1頭500円のワークショップやドッグランのほかに無料での体験もあり、コンテンツが年々進化しているので、素晴らしい計画だと思う。
- ・参加者も毎年増加しており、事業が上手くいっていることが伺える。

【採択結果】

合計点 77.3 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		77.3

6月15日審査結果（22事業のうち11事業）

採択とする事業 11事業

令和元年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：令和元年6月16日（日）
午前9時00分～午後5時00分
場 所：市役所前川新館3階大会議室

出席者：審査委員 土井委員長、安田委員（事業番号22まで、事業番号5）、鴻野委員、齋藤（秀）委員、藤田委員（事業番号22まで）、柴田委員、齋藤（紀）委員、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員（事業番号22まで）、川村委員
市民協働課 高谷課長、竹内補佐、中村係長、阿保主査、小山主事、村上主事、菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 6月15日に引き続き審査

《審査内容》

●14：「ひろさき美術館4」／弘前アートプロジェクト実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：中央弘前駅の待合室からギャラリーまんなかに入るあたりに作品を置くなど、会場に入りやすくなるための工夫があれば教えていただきたい。

A：作品の置き場についてはギャラリー側との交渉が必要となるが、検討してみたい。

Q：会場の1つである中央食品市場に入ったことがない人でも入りやすいような工夫があれば教えていただきたい。

A：地元の学生でも入れたことがないという人たちがいるかもしれないので、例えば市場の裏側から入って土手町側に抜けて、もう1つの会場であるギャラリーまんなかに向かうコースを提案するなど、若い人が勇気を出して入ってみようと思えるような企画を考えていきたい。

Q：回遊性やまちの賑わいの評価をどのようにする予定か、教えていただきたい。

A：来場者数の数値化のほか、アンケートによって巡った会場を答えていただこうと思っている。

【主な意見】

- ・中央食品市場にスポットをあてるのは、土手町にとっても良いことだと思うので、市場の土手町側の入口にフライヤーを飾って賑やかにして、通りを歩く人に注目してもらえるようにしていただきたい。
- ・写真展示だと、アートとして見たい人だけでなく、昔の弘前を懐かしんで見に来る人も

いると思うので、これまで足を運ばなかった人にもPRしていただきたい。

- ・せっかく会場を中央食品市場にしているのので、事業を目的に市場に入った人をお店に呼び込める仕組みや、お店とコラボしたりすることで、お店の売上にも貢献できるような工夫もしていただきたい。

【採択結果】

合計点 67.8点 ≥60.0点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		67.8

●7：弘前 サンポーニャ・ワークショップ&コンサート

／弘前 スペイン・ラテンアメリカ交流協会

【質疑応答 (抜粋)】

Q：2日間のワークショップやコンサートの前後に行うことはあるのか。また、地域の文化振興や国際理解協力の推進の具体的なビジョンや今後の展開を教えてください。

A：参加者の需要に応えながら練習会などを定期的に行っていくことや、大学祭や藤田記念庭園で演奏するなど、継続発展させていきたい。また、楽器を作ることから始めることで、遠い国の文化を身近に感じることができ、素朴な素材を資源として考えるきっかけになると考えている。

Q：本格的な竹ではなく、太いストローなど身近にある材料を使うことで、子どもたちの参加を増やすことは考えられるか。

A：コンセプトを「身近なもので楽しむ」に置くか、「いい音楽を演奏する・聴く」に置くかによって変わると思う。市民の方たちが何を求めているかを探してみたい。

Q：材料となる竹を海外から持ってくるのではなく、地元のものを使うことはできるのか。

A：いろいろと産地によって試しながら仲間を増やすことも会の目的にあるので、興味がある人はぜひ一緒に活動していただきたい。

【主な意見】

- ・ 普段触れることの少ない海外の文化に触れることができ、世界観が広がることは理解できるが、多くの市民に関心を持ってもらい、巻き込んでいくためのアピール方法をより工夫していただきたい。
- ・ 他の活動とも接続させながら、将来のビジョンを具体的に描いていただきたい。
- ・ これまでも1%システム採択事業で弘前大学の学生たちが中心となって、手回しオルガンやスティールパンなどを紹介してきているので、これらの団体が交流して、次の活動に繋がればいいと思う。
- ・ せっかくの機会なので、講師の方からアンデスの文化や歴史を楽しく学べるような内容も考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 57.5 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※ 審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.5
合計		57.5

● 8 : 「スマイル up ルーム (仮)」 / 特定非営利活動法人 マザーフィールド

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 子供の送迎の状況と団体保険の加入状況を教えていただきたい。

A : 親御さんによる送迎については、理解を得ている。団体保険については、ボランティアの方の保障や食事提供に関するものを含めた保険に加入している。

Q : 今は、ひとり親家庭の子を対象だが、将来的に対象者の範囲拡大は考えているか教えていただきたい。

A : ひとり親家庭以外でも孤食をしている子どもたちや貧困世帯もいるかもしれないということで、当会の中でも見直す話が出ている。

Q : 参加している子どもたちの食事の状況はどうか。

A : 食生活改善推進員がつくる食事は素晴らしく、初めてだしづくりを体験する子がいたり、余したらもったいないと感じる子が増えて、食事は進んでいる。

【主な意見】

- ・ 子供たちの学習会を行っている他団体とネットワークを作れば、情報交換ができ、より多くの子供たちが集まると思う。
- ・ できる範囲の中で、学生やボランティアと協力してやっていっていただきたい。
- ・ 学習のことで困っている保護者もいるから、学習と食事を併せて継続して実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 74.9 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※ 審査委員 11 名で審査採点 (藤田委員は審査から外れる)

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		74.9

● 21：子育てが楽しくなるパパママ楽習会／子育てパパママ楽習会運営委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：3年継続しているが、新規や継続して参加している人の割合はどうか。

A：転勤で参加できなくなる人もいるが、ほぼ継続して参加している。駅前こどもの広場に紹介してもらって新規で参加する人や両親と一緒に参加する人が徐々に増えてきている。

Q：運営メンバーは増えてるか。また、市の子育て支援センターとの連携はあるか。

A：協力したいという人は10人位いるが、平日の夜に集まって会議をすることが多く、子どもがいる人だとなかなか難しい状況。子育て支援センターとの連携については、今後参考にさせていただきたい。

【主な意見】

- ・障がいのある子どもの保護者の方も一緒に参加できるように広げていただきたい。
- ・多様性を持って、自分たちの経験や自分で読んだ本などをシェアして学ぶような場にシフトして行っていただきたい。
- ・先生の教えも一つとして、もう少し自由度を持ちながら、自分はどうか考えるか、自分が子どもをどう育てていくか意見を持つ事が大事だと思うので、上手く工夫して仲間を増やして広めて行っていただきたい。
- ・講演会だけでなく、お互いに教える・教わるような場でも良いと思う。

【採択結果】

合計点 66.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合計		66.3

● 22 : 岩木山エコプロジェクト／岩木山観光協会

【質疑応答（抜粋）】

Q : ゴミの処理業者による受け入れ状況について教えていただきたい。

A : 拾ったゴミが汚いままだと受け入れてもらえず、できるだけ綺麗な状態で引き渡してほしいと依頼されている。プラスチック・ペットボトルは洗って、特に注意してやってみようと思っている。

【主な意見】

- ・団体が一生懸命やってくれるうちは、ずっと続けていただきたい。

【採択結果】

合計点 91.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	9.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合計		91.0

● 10 : 弘前市民への防災力・減災力の向上推進隊／弘前市防災マイスター連絡会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 「自主防災組織」の結成を検討している町会には、防災マイスターはいるか。

A : 防災マイスターの住所は教えてくれるが、町会に加入しているかはわからない。マイスター連絡会のメンバーには、町会の中に入ってアプローチしてくださいとお願いしている。

Q : 大きなイベントでブースを持って広めていくのも良いと思うが、町会のまつりなどへは出向いているのか。ぜひ、地域の防災マイスターを活用していただきたい。

A : 今年度は、大沢町会の方から連絡があって、サマーフェスティバルへ参加することになっている。

Q：地域活動が活発な町会にアピールすれば効果的だと思うが、アンケート調査で、勢いがある町会や前向きに考えている町会の特徴があれば教えていただきたい。

A：前向きに考えている町会の中には、資機材等の置き場や維持管理費の問題で前に進めないという意見があるが、維持管理費がかからないものを選んだ方が良くことや、置く場所も工夫しましょうと話している。

Q：負担軽減のため、隣の町会とグループを組むことを考えている町会はあるか。

A：高齢化問題もあり若い人が少なくなってきたので、隣の町会と組んで一緒にやるという話もあり、私たちが勧めている。各町会の要援護者についてもお互いに把握する必要があると考えている。

【主な意見】

- ・町会のお祭りの計画を見てアピールするのも良いと思う。弘前は災害が少ないため被害者側の立場よりも、いざという時に人を助ける為に勉強する方が受け入れやすく、意識が高まるように感じる。
- ・結成に踏み切れない町会へのアプローチの仕方は工夫していて良い。1つ2つでも地道にやっていたら成果が上がると思う。
- ・火事など身近なテーマから防災の必要性を掘り下げていけば、関心を持ってくれやすいと思う。

【採択結果】

合計点 77.3 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 8 名で審査採点（一條委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		77.3

●1：子どもの安全・安心サポート事業／弘前市立福村小学校後援会

【質疑応答（抜粋）】

Q：緊急メール時の対応は、高齢の方が主に集合して活動するのか。

A：私たちの地域は、約半分が農家世帯で、若い人も年中すぐ連絡を取り合っただけで動いてくれている。

【主な意見】

- ・みんなが顔見知りというわけではないから、活動する時にお揃いのベストを着用していれば、子どもの安心や犯罪の抑止力に繋がると思うので、ぜひ実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 81.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合計		81.3

●19：かくみ小路の職人が教えるキッズ調理実習／かくみ小路村 村会

【質疑応答（抜粋）】

Q：メニューは、どのようにして決めたのか教えていただきたい。

A：子どもに馴染みがあるハンバーグと家庭で簡単にできるハンバーグソース作りや巻き寿司を巻きすでつくる作業を体験し、作る喜びを親子で感じてもらいたい。

Q：3年間補助金申請を要望したいとあり、できれば予算を抑えながら継続していただきたいが、削減できる場所はあるか。

A：参加費は変えずに、消耗品を継続して使用するなどを工夫して、費用を抑えながらやっていきたいと思っている。

Q：参加者全員で順番に回るのか、班編成をして回るのか。

A：3班に分かれて、オリエンテーション型にしようと考えている。

Q：子どもたちは、実際プロの調理道具を使ったり、バーカウンターや調理場に入って体験したりできるのか。

A：バーカウンターでは、子ども用のオリジナルレシピでドリンク作りが体験できる。普段は子どもが入ることがない非日常的な場所なので、写真撮影もして楽しんでいただきたい。

【主な意見】

- ・できれば地域の食材をより多く使っていただくようお願いしたい。
- ・普段家庭では使われないような材料や道具が見られて、厨房でプロの技を見られるのは、子どもたちにとってワクワクできる体験になると思う。
- ・会場費が高いように感じるが、お店の調理器具の使用や後片付けも含まれるのであれば妥当だと思う。

【採択結果】

合計点 72.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		72.4

●18：ムーンライトシネマフェス／ムーンライトシネマフェス実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：イベントの中にジャズバンド演奏と映画の上映があるが、DJ 5人の演奏はどの場面で入るのか教えていただきたい。

A：飲食ブースは映画が始まる前の5時から7時に既に出店しており、早めに来た人が、ゆっくりする時間や空間をみんなで共有して楽しんでいただくために、ジャズだけではなく、DJにもお願いして子どもも楽しめる夏のイベントにしたいと思って企画した。演奏のスケジュールはこれから検討する。

Q：雨天時の対応について教えていただきたい。

A：雨天時は翌日に延期する予定だが、2日連続で雨の可能性もあるので、100人位入るエアルーフのレンタルや翌週への延期など、今後さらに検討させていただきたい。

Q：Tシャツに日付や場所を入れると、今回のイベントしか着用できないのではないか。

A：Tシャツにはイベント名だけを書いて、当日出店する各ブースの店舗に事前に配布し、ねふた期間などイベント前の普段の営業からずっと着てもらおうと告知になると思っている。また、日付を入れずに作成し、翌年も使うことができるようにしたい。

【主な意見】

- ・雨が心配だが、屋外での映画上映は面白い企画だと思う。将来的に公園の広場での開催など、いい方向に進んでいただきたい。

【採択結果】

合計点 73.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員9名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.9
合計		73.1

●4：ありんこまつり／特定非営利活動法人 ありんこ

【質疑応答（抜粋）】

Q：市内で放課後デイサービスを行っている他施設の方へ案内しているか。

A：一般の方にも来ていただきたいので、他施設にもご案内をしており、放課後デイサービスを知らない方にも施設を見ていただきたく、当施設でイベントを開催している。

Q：施設内を開いて、地域の方にも来ていただくという観点で、これまでと違って新しく加えることがあればご説明いただきたい。

A：今回は、ステージイベントで弘前大学のサークルの方に出演依頼をしており、さらにいろいろな人が興味を持って来てくださればと思っている。また、イベントは、特別支援学校へのお便りや町会の回覧板・掲示板、ホームページなどで周知しており、今年からは他の学校にも広くチラシを配布しようと思っている。

Q：ボランティアスタッフは弘前大学の学生か。学生の将来の為にもなるので、ぜひ他の看護学校などにも声をかけていただきたい。

A：例年は弘前大学の学生に参加していただいているが、今年は他の大学にもボランティアをお願いしたいと思っている。

【主な意見】

- ・来年度以降も補助金を申請するのであれば、周知期間を考慮して、早めに1次審査に応募すれば良いと思う。
- ・現在の場所は集客が少し難しい立地なので、将来的に、立地条件が良く、集まりやすい場所での開催や複数の事業所と併せて開催するなどの工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 72.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		72.0

● 15 : 子ども達にCAPを届けよう 副題「あなたは大切なひと」

／あおもりCAPの会 中弘南黒地区

【質疑応答 (抜粋)】

Q : J-CAP TAトレーナーを呼ばずに、CAPスペシャリストだけで実施できるのか教えていただきたい。

A : 全域で公開でなく、地域の大人ワークショップのみであれば実施可能となっている。

Q : 1会場25人の参加者を見込んでいますが、感触はどうか。

A : 要望もきこえており、また、会場のスタッフが地域のかたに声をかけてくれるという話もいただいているので、期待している。

【主な意見】

- ・「子どもを様々な暴力から守る」というテーマで、地域の大人を対象とした啓発活動を行うことの重要性は理解するが、上部団体の講師を招聘しなければ公開ワークショップを開催できないという手法やシステムで申請を続けることに疑問が残る。
- ・対象が子どもではなく、個人のスキルアップにつながるのであれば、資料代程度の参加費を徴収するなど、収入を得るための工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 51.2 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	4.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.2
合計		51.2

6月16日審査結果 (22事業のうち11事業)

採択とする事業	9事業
不採択とする事業	2事業

2次募集事業の審査結果 (22事業) 6月15日・16日審査合計

採択とする事業	20事業
不採択とする事業	2事業